

(3) 地域での生活

①生活体験

問5 次のA～Mのことを、どのくらいしたことがありますか。

(たくさんある、 数回ある、 一度もない から選択)

- A テレビを見ない生活をする
- B 赤ちゃんにふれる
- C 魚を焼く
- D 取っ組み合いのけんかをする
- E 川で泳ぐ
- F 牛や馬にさわる
- G カエルにさわる

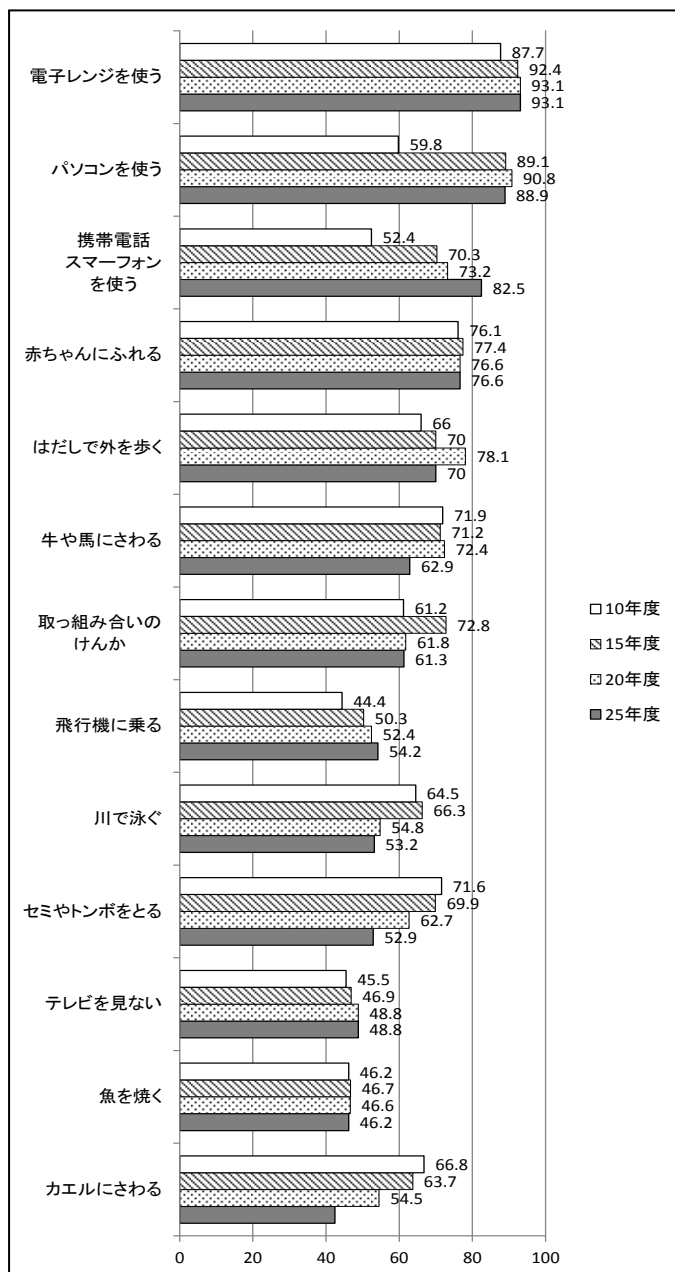
- H セミやトンボをとる
- I はだして外を歩く
- J 電子レンジを使う
- K パソコンを使う
- L 飛行機に乗る
- M 携帯電話・スマートフォンを使う

※グラフは、「たくさんある」「数回ある」を合わせたものである。

※平成20年度までは、「M 携帯電話」。

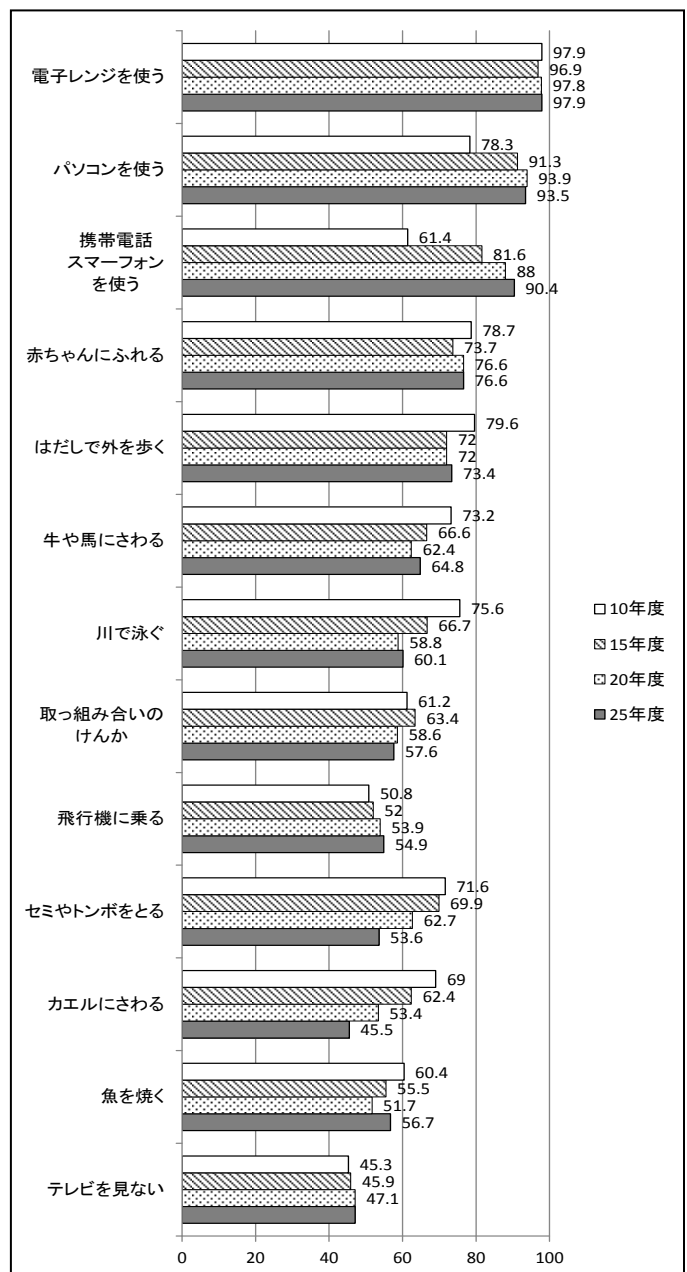
問5 次のことをどのくらいしたか (小学生)

〈たくさんある+数回ある〉



問5 次のことをどのくらいしたか (中学生)

〈たくさんある+数回ある〉

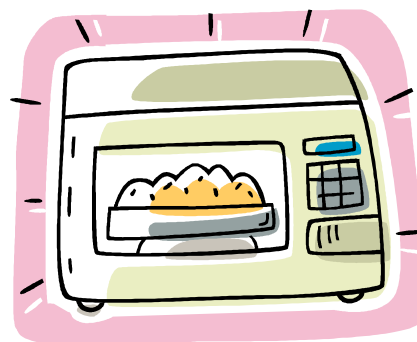
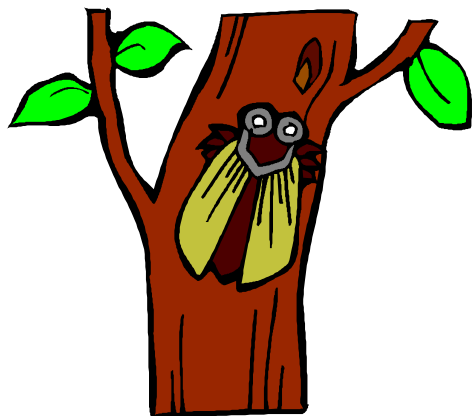


＜平成 2 5 年度の結果＞

小学生、中学生ともに、「たくさんある」「数回ある」がもっとも多いのは、「電子レンジを使う」「パソコンを使う」で約 9 割である。「携帯電話・スマートフォンを使う」は、小学生でも 8 割を超え、中学生では 9 割弱と高い数値になっている。一方、「カエルにさわる」「セミやトンボをとる」といった自然体験に関する項目では、小学生、中学生ともに 4 ～ 5 割程度であった。

＜平成 1 0 年度から 2 5 年度を通しての比較＞

過去の調査を通して、小学生、中学生ともに、「パソコンを使う」「携帯電話を使う」割合が約 9 割近くにまで迫る勢いで増えてきていることがわかる。^(*) その反面、自然体験が徐々に減少してきているため^(*)、自然とのふれあいから遠ざかりつつある様子がうかがえる。

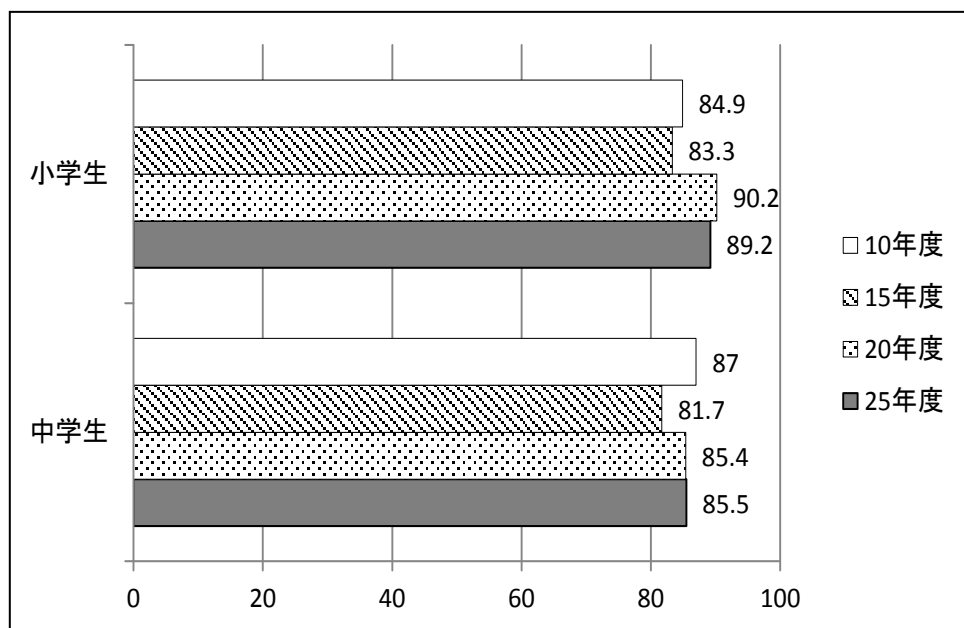


②地域との関わり

問 2 8 近所の人とあいさつをしますか。

1. する 2. しない

問 28 近所の人とあいさつをする



<平成25年度の結果>

小学生、中学生ともに、約9割が「する」と回答している。

綾瀬の子どもたちは学年の隔てなく地域の人とあいさつができていた様子が見える。

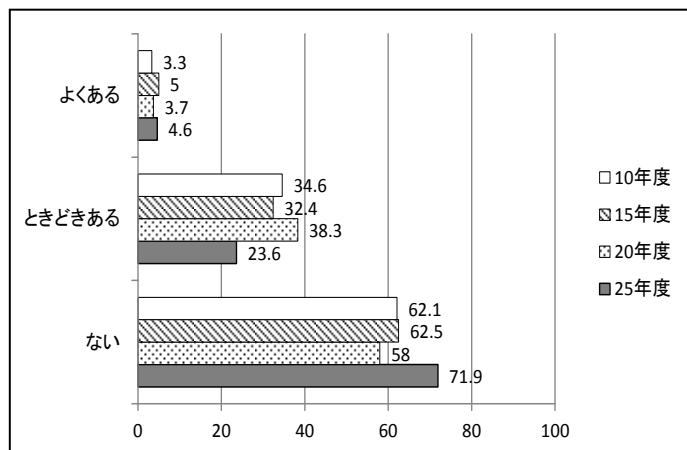
<平成10年度から25年度を通しての比較>

過去の調査と比較しても綾瀬の子どもたちは、きちんとあいさつしている様子が見える。

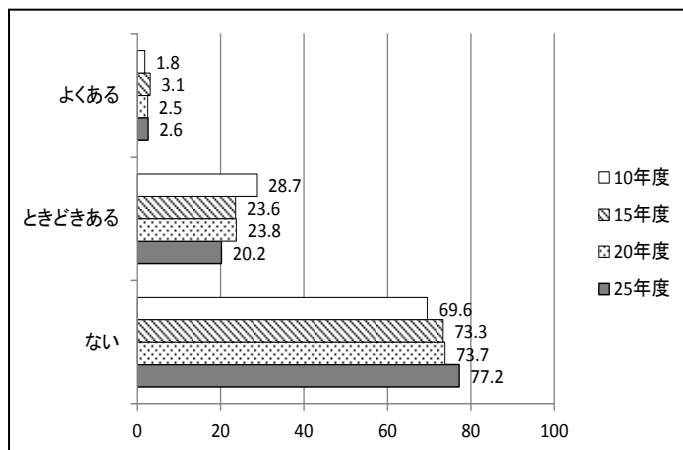
問 2 9 近所の人から、注意を受けたりしかなかったりしたことがありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ない

問 29 近所からの注意（小学生）



問 29 近所からの注意（中学生）



<平成25年度の結果>

「ない」と回答した割合は、小学生で約7割、中学生で約8割であった。

<平成10年度から25年度を通しての比較>

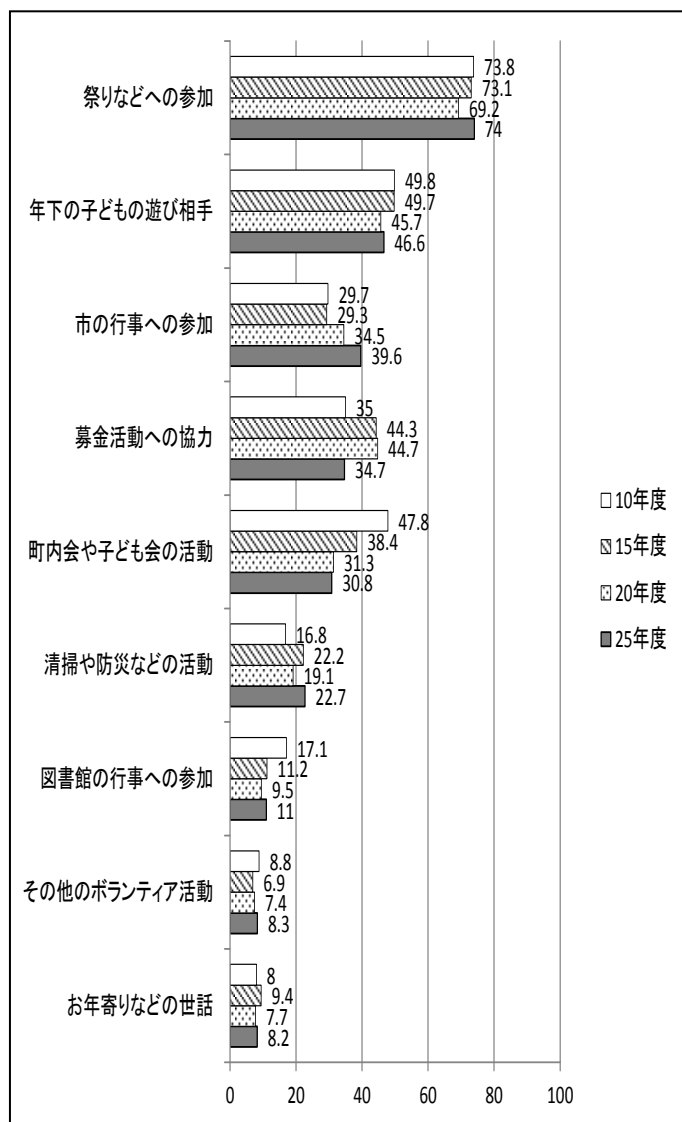
小学生、中学生ともに、注意を受ける機会が減ってきていることが分かる。(*) 平成25年度は、「よくある」「ときどきある」を合わせても約3割に満たず、今回の調査が最も少ない割合であった。さらに「ない」と回答している割合も、今回の調査が最も多く、中学生に関しては約8割であった。

③地域での活動

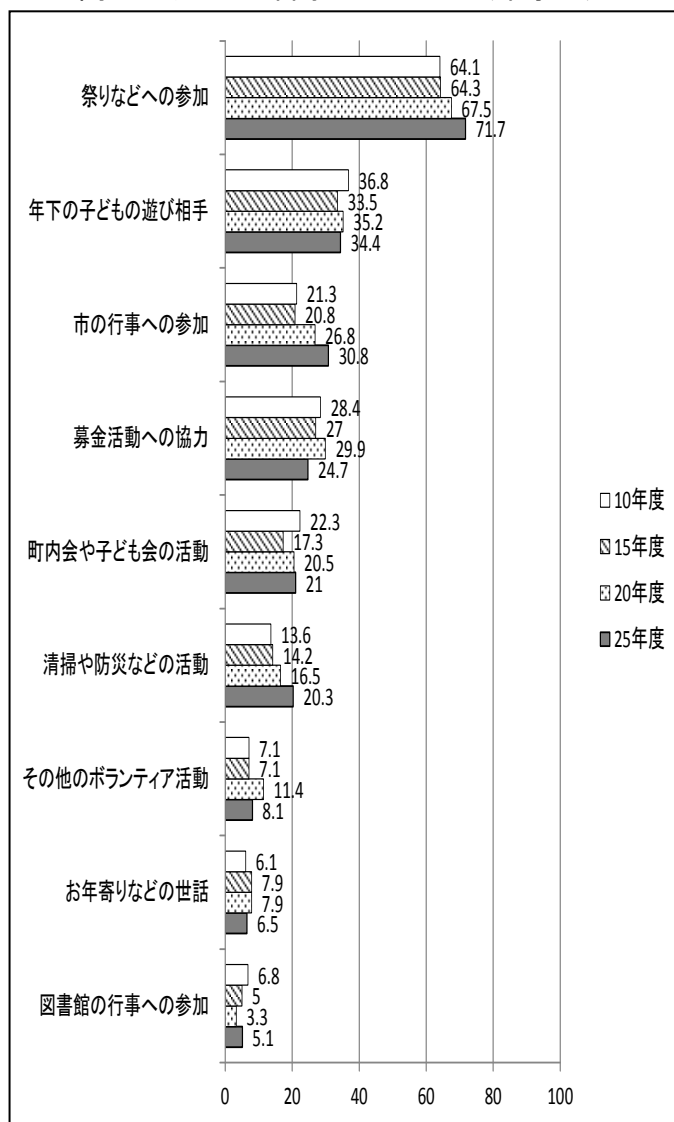
問30 過去1年間に、次の1～9のようなことをしましたか。(いくつでも)

1. 近所の祭りや盆踊りなどへの参加
2. 町内会や子ども会の活動
3. 近所の年下の子どもとの遊び相手
4. 近所の清掃や防災などの活動
5. 市の行事への参加
6. 体の不自由な人やお年寄りの世話
7. 募金活動への協力
8. その他のボランティア活動
9. 図書館の行事への参加

問30 過去1年間にしたこと (小学生)



問30 過去1年間にしたこと (中学生)



<平成25年度の結果>

小学生、中学生ともに、「近所の祭りや盆踊りへの参加」がもっとも多く、7割以上である。続いて「近所の年下の子どもとの遊び相手」「市への行事への参加」「募金活動への参加」が上位を占める。「図書館の行事への参加」「体の不自由な人やお年寄りの世話」は、1割以下と低い数値である。小学生の方が、中学生よりも全体的に参加率が高い。

<平成10年度から25年度を通しての比較>

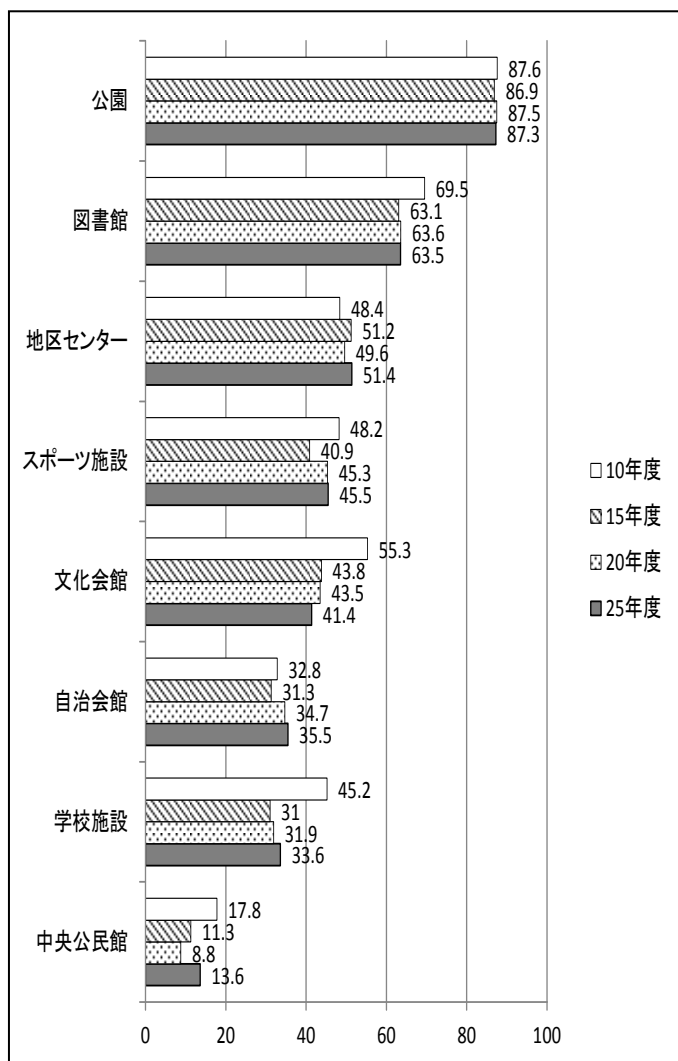
小学生、中学生ともに、「近所の祭りや盆踊りなどへの参加」「市の行事への参加」「近所の清掃や防災などの活動」が5年前に比べて増えてきている。(*)

④地域での施設利用

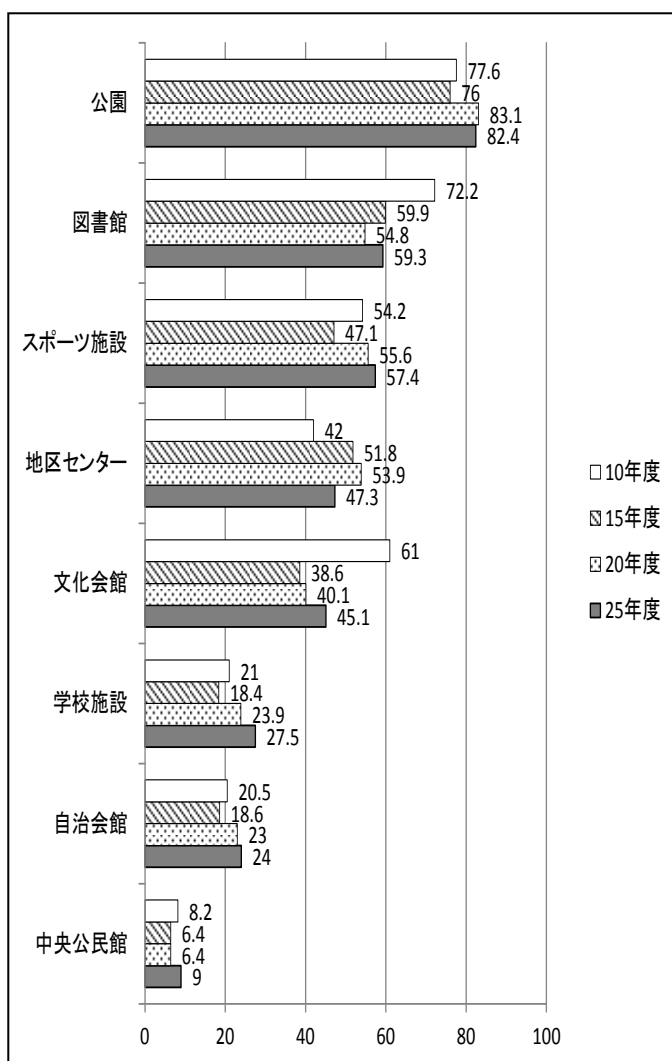
**問 3 1 過去 1 年間に、学校行事以外で市内の次の施設を利用したことがありますか。
(いくつでも)**

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 図書館 | 5. 中央公民館 |
| 2. 地区センター(南部ふれあい会館と寺尾
いずみ会館も含まれます)・児童館 | 6. 自治会館 |
| 3. スポーツセンター・スポーツ施設 | 7. 学校施設(学校での活動以外で
利用) |
| 4. 文化会館 | 8. 公園 |

問 31 過去 1 年間に利用した施設(小学生)



問 31 過去 1 年間に利用した施設(中学生)



<平成 2 5 年度の結果>

小学生、中学生ともに、「公園」が圧倒的に多く、次いで「図書館」「地区センター・児童館」と続く。また、中学生になると「スポーツセンター・スポーツ施設」の利用も増える。子どもたちにとって、このような施設が身近な遊びの場として、また、集まるのに便利な場として利用されていると思われる。

<平成 1 0 年度から 2 5 年度を通しての比較>

ほとんどの施設で利用状況は、大きく変化していない。^(*) 第 1 次の調査を除くと、小学生とは違って、中学生では、「スポーツセンター・スポーツ施設」「文化会館」「自治会館」が増加傾向、「地区センター・児童館」が減少傾向である。^(*)

⑤地域への愛着

問 2 5 今住んでいるところが好きですか。

1. 好き 2. どちらともいえない 3. 好きではない

問 2 6 あなたは、綾瀬市が好きですか。

1. 好き 2. どちらともいえない 3. 好きではない

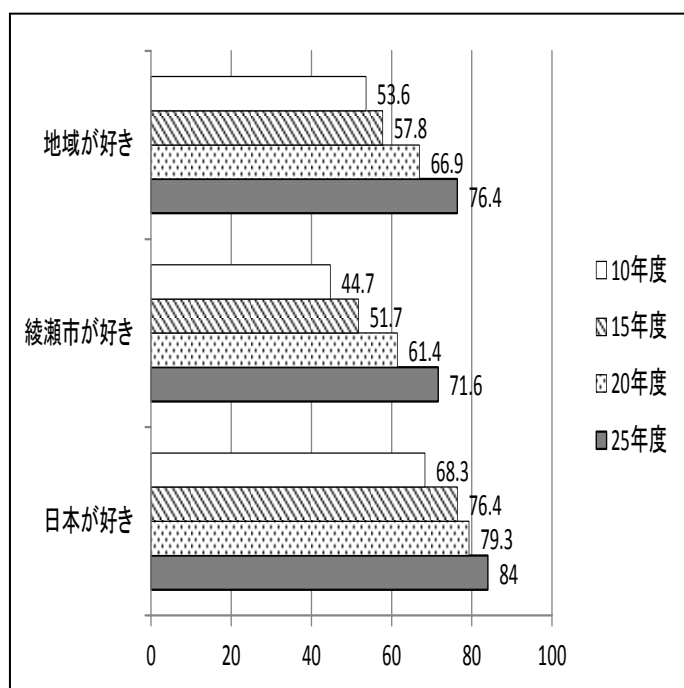
問 2 7 あなたは、日本が好きですか。

1. 好き 2. どちらともいえない 3. 好きではない

※グラフは、いずれも「好き」と答えたものである。

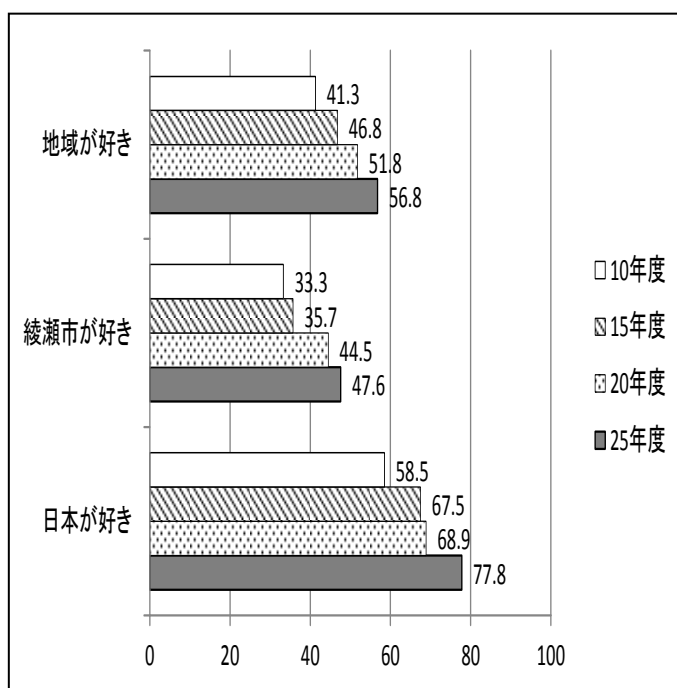
問 25～27 地域への愛着（小学生）

〈好き〉



問 25～27 地域への愛着（中学生）

〈好き〉



＜平成 2 5 年度の結果＞

小学生、中学生ともに、「日本」「今住んでいるところ」「綾瀬市」の順に「好き」という回答が多く、いずれも小学生の方が高い数値を示している。「好きではない」という回答は1割に満たない。

＜平成 1 0 年度から 2 5 年度を通しての比較＞

過去の調査に比べると、どの項目でも「好き」が増加し、地域への愛着が高まっている。^(*)
 15年前に比べて、綾瀬市周辺もスーパーや飲食店などの商業施設も増え、公園等の公共施設が整備され、子どもたちにとっても住みやすい街づくりがすすめられている。そのことによって地域学習の機会も増え、地域への愛着が深まることとなったと考えられる。